

## 平成 3 1 年度 教育予算方針

### ○基本目標

#### 1 生きる力を育む学校教育の推進

##### (学校教育の充実、家庭・地域・学校の連携)

##### (1) 学校施設の整備 (非構造部材耐震改修工事の実施)

安全、安心な教育環境を整備するため、学校施設の非構造部材(天井、照明、窓ガラス等)の耐震化を実施してきたが、平成30年度工事を含め進捗率は90%である。全ての小中学校が完了する平成31年度に向けて、来年度も計画的に実施していく。

##### (2) 学校施設の整備 (空調設備設置工事の実施)

平成31年度より、夏場の熱中症等の危険性を鑑み、児童・生徒・教職員の安全な教育環境・執務環境を整備するため、各市内小中学校の普通教室、特別教室、職員室、校長室への空調設備(エアコン)設置工事を計画的に実施する。

##### (3) 小中学校 ICT 教育環境の整備

平成32年度から完全実施される新学習指導要領に示された、「学校の ICT 環境の整備及び ICT を活用した学習活動の充実」を図るため、合わせて避難所としての防災機能を強化するため、平成30年度に市内全小中学校における無線 LAN 環境構築を実施した。平成31年度には各教室に電子黒板の整備を図っていく。

##### (4) 学生アシスタント・ティーチャー事業を核とした放課後学習の推進

基礎学力の定着、向上を図るため、都留文科大学と連携したSAT事業を推進するとともに、放課後や長期休暇等を活用した学力向上フォローアップ事業を展開し、保護者に金銭的な負担をかけずに、誰もが参加できる学習の機会を提供する。

#### (5) 市担教員、教員補助員の配置によるきめ細かな学習指導の推進

県のはぐくみプランによる少人数学級制と併せ、市担教員を配置する中で、チーム・ティーチングや習熟度指導、補習等のきめ細かな学習支援を推進する。

また、特別支援学級と通級指導教室の計画的な設置を行うとともに、支援を必要とする児童・生徒のため、教員補助員を配置する等、インクルーシブ教育システムの構築を図る。

#### (6) 英語特区及び外国語指導者招致事業の推進

平成27年度よりスタートした都留文科大学附属小学校における教育課程特例校事業（英語特区）における各学年の英語カリキュラム及び指導要領により、1年生から6年生まで、一貫した英語授業を実施する。また、英語検定合格者を多数出すことにより、附属小学校のPRと児童数の確保を図る。

外国語指導者招致事業におけるALT（外国語指導助手）の活用については、新学習指導要領におけるコマ数の増加に伴い、平成30年度はALTを1名増員し4名で英語授業を行った。平成31年度にはさらに2名のALTを増員し、計6名で英語授業の強化を図る。

#### (7) 教育施設等長寿命化計画の策定

平成30年度から平成31年度において、学校施設・体育施設・生涯学習施設・公民館・教員住宅敷地内にある建築物の、現状把握・課題整理・分析を行い、今後の維持保全の方向性を検討するとともに、現地調査を踏まえた施設評価を行い、ライフサイクルコスト、保全優先度を勘案した教育施設の長寿命化計画の策定を図っていく。

## 2 地域の教育力を高める生涯学習の推進

### (生涯学習の推進、スポーツの振興、文化・芸術の振興)

#### (1) のびのび興譲館事業の推進

市内の大学、地域との連携に努め、地域のジュニアリーダーとして活躍できる人材を育成するために「のびのび興譲館事業」の内容を検討し、充実を図る。

#### (2) 健康ジムの活用と各種スポーツ教室等の充実

市民の健康増進に寄与することはもとより、高齢者が身体機能を維持し、健康寿命を延ばすことを目的に、開設した健康ジムの活用を進めるとともに、各種スポーツ教室の充実を図る。

平成28年度より開催しているロードレース大会の内容を検討し、更なる充実を図る。

#### (3) 学び・まちづくりの交流拠点の充実

生涯を通して学び、充実した生活を送ることを目指す「生涯活躍のまち・つる」推進に向け、生涯学習の拠点となる、まちづくり交流センター・ふるさと会館・公民館における各種活動を充実させるとともに、市立図書館・ミュージアム都留においても情報提供の充実に努める。

#### (4) 老朽施設の改修・設備の更新等

平成14年完成のやまびこ競技場は3種公認のため、レーン等の大規模改修に平成29年度から着手しているが、5か年計画での整備を着実に進めていく。また、平成8年オープンの都の杜うぐいすホールの設備の老朽化が進んでおり、計画的に設備の更新を進める。その他の施設についても、長寿命化計画の策定を進め、計画的な改修・更新に努める。